

# 講義要綱

*Syllabus*

2024

28 期生 2 年次

長崎県央看護学校 看護師 2 年課程

## はじめに

講義要綱(シラバス)とは、授業に関する基本的な情報をまとめた「授業概要の説明書」です。各年度のはじめに学生 みなさんに配布し、学習を進める際の手がかりとして活用されるよう編集されています。科目概要と到達目標、授業方法・授業計画に始まり、教科書や参考文献など、より理解を深めるための学習ができるように工夫されています。

また、成績評価の方法や履修上の留意点など、学習の評価と直結する内容も盛り込まれています。授業に出席する前には、各科目のシラバスを必ず読み込んで当日に備えるようにしてください。

それぞれの授業科目には、その科目の学修に必要と考えられる時間数を基準にして「単位」が定められています。授業、予習や準備、復習や課題を達成する時間などを総合して45時間となるとき、これを1単位とすることを標準としています。授業科目の単位数は授業を受けるだけでなく、予習や復習等が必要であることを前提に定められていることを銘記しておきましょう。

# 目次

教育理念・教育目的・教育目標	.....P1
教育課程	.....P2
講義要綱(シラバス)の見方	.....P6～7
授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧	...P8～9
基礎分野	.....P10～13
専門基礎分野	.....P14～18
専門分野	
基礎看護学	.....P19～21
地域・在宅看護論	.....P22～24
成人看護学	.....P25～26
老年看護学	.....P27～29
小児看護学	.....P30～33
母性看護学	.....P34～37
精神看護学	.....P38～40
看護の統合と実践	.....P41～42
基礎看護学実習	.....P43～44

## 教育課程の基本概念

カリキュラムを構築する基本概念を、「看護」と「看護師育成」の2つの視点から明らかにした。看護の基本概念は、看護の主要概念である「人間」「環境・社会」「健康」「看護」、看護師育成の基本となる概念を、「学習」「教育」と捉えた。

本校の教育課程の基本概念は、この6つの枠組みで構成する。

教育課程の基本概念	
人間	<p>人間は、唯一無二の存在であり、個別的・社会的存在である。人間は、生物体であり、環境との相互作用を持ち、誕生から死まで、絶えず、成長・発達・変化している。</p> <p>人間は、身体的・精神的・社会的存在としての生活統合体であり、多様な価値観を持ち、個別の生活様式を持つ。統合体としての人間は、変化や刺激に対して統合機制*<sup>1</sup>を働かせて対応し、心身一体として存在している。この統合機制の働きの結果として反応や行動が起きる。</p> <p>人間は、様々なニーズを充足するために行動し生活している。人間は、自らの責任において意思決定し、自己実現へ向かう存在である。</p> <p>人間は、病気に対処する回復力をもっており、回復に適した安全な環境を用意すれば、力の及ぶ限り、自分で回復することができる。</p>
環境 ・ 社会	<p>環境とは、人間を取り巻くすべてであり、人間も環境の一部である。環境は、その人の統合機制を活性化させる刺激であり、健康状態に影響を与える。環境には、外的環境、内的環境があり、人間の生活に直接的・間接的に影響する。</p> <p>外的環境は、物理的・化学的・生物学的環境及び人的・社会的環境があり、これらは相互に影響しあう。内的環境とは、体内環境を指す。</p> <p>社会は、環境の一部である。社会は構成する人間の相互作用によって変化する。社会の中で人間がよりよく生きるために、法、政治、経済、文化、教育、医療、福祉などの機能がある。社会は、個人・家族・地域から構成され、社会の最小単位は家族である。家族は、多様である。</p>
健康	<p>健康の概念は、主観的・個別的なものであり、時代とともに変化する。健康は、すべての人の基本的な権利であり、人間の幸福の一条件である。</p> <p>WHOは、健康とは単に疾病や障がいがないというだけでなく、身体的にも、精神的にも、社会的にも完全な良い状態と定義している。健康とは、身体的・精神的・社会的統合の状態及び過程であり、統合とは諸機能が滞りなく働いている状態である。その人のその時の健康状態は、最適な健康レベルから死のレベルにいたる連続した過程の中で位置付けられる。</p> <p>人間は、自らの健康を維持するために、健康をコントロールし改善することができるようなプロセスを獲得し実践していく。健康は一人ひとりの人生の目標を達成するための基盤である。</p>

看護	<p>看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象とし、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通して最期まで、その人らしく生を全うできるよう保健医療福祉を提供する。</p> <p>看護は、患者の個別性を尊重し、自立を支援する営みである。看護活動は、看護に必要な情報収集、解釈、問題の明確化、計画立案、実施、評価を構造とし、実施される。実施には、科学的根拠(探究するという言葉の意味が含まれる)に基づいた技術と、人間尊重の思想を基盤とした態度が必要であり、対象者と看護者との関係の中で成立し展開される。</p> <p>看護職は、免許によって看護を実践する権限を与えられた者である。看護職は、社会的な責務を果たすため、看護の実践にあたっては、「看護職の倫理綱領」を行動指針とする。看護職は、多様な場において、多職種と連携・協働し対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造しうる能力を持つ。</p>
学習	<p>学習とは、学習者自身が経験を通して自己を変化させ成長していく過程である。経験の結果として生じるのは、永続的な行動の変容である。経験を通じて知識や技能、環境に適応する力、自分で課題を見つけ自ら学び主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力を身につける。主体的に学ぶとは、外発的・内発的動機づけによって、学生自身が興味をもって積極的に取り組み、学習活動を自ら振り返り意味づけ、身についた資質や能力を自覚し、共有することをいう。</p> <p>学習とは他者の考え方、見方を受け止め、尊重し、対話的に学び、相互に高め合うことである。対話的に学ぶとは、学生同士、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えることで、自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気づくことが難しい気づきを得たりしながら、考えを広げたり深めたりすることである。</p> <p>学習の目的は、社会に適応するために必要な知識、技能を身につけ、人間性を養うことにある。学習者は社会と連携・協働しながら、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルと必要な資質を学ぶ。</p>
教育	<p>教育とは、教育を受ける権利を有する学習者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスであり、生涯にわたり学び続ける力を育てるものである。教育は学習者と教育者の信頼関係を基盤に行なわれ、学習者と教育者、学習者同士は、共に学習し合っていく関係にあり、互いに成長していく。</p> <p>教育は、学校の教育目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、教育目標の達成を目指し、意図的計画的に学習者に働きかけるものである。教育活動は、個人の内在する資質、学習者の自己成長・発達の潜在能力を最大限に引き出すように学習方法や学習環境を整え、個々の学生の状況をふまえて行う。</p> <p>教育により学習者が身につけるものは、人間的成長であり、生きる力である。生きる力とは、知識・技術だけでなく、豊かな人間性や真理を求める態度、様々な心理的・社会的な資源を活用して複雑な課題に対応することができる力であり、伝統や多様な文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参加し、発展に寄与する態度のことを指す。</p>

\* 1 統合機制：身体的精神的・社会的統合機制のことをいう。身体的統合には、さまざまな要因によってたえず変化する内部環境をコントロールし、身体の諸機能を全体的に調整しようとするメカニズムが働く。精神的・社会的統合にはコーピング機制が働く。コーピングは、人がその人のやり方でストレスや脅威を緩和・軽減・除去しようとする試みの過程をいう。

# 教育理念

本校における看護教育は、社会の変化・情勢に対応し、保健・医療・福祉の向上を目指して社会に貢献できる看護実践者を育成することである。

この考えに基づき、人々から信頼を得られる看護の専門的な知識・技術・態度を養い、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を育成することを本校の責務とする。教育の基本は、学生が主体的に学び、自己成長できるよう支援していくことである。

# 教育目的

看護師となるために必要な豊かな人間性を養い、専門的知識・技術・態度を修得すると共に保健・医療・福祉システムにおけるチームの一員として社会に貢献できる看護師を育成する。

# 教育目標

1. 生命の尊厳と人間尊重の理念に基づき、豊かな感性と調和の取れた人間性を養う。
2. 社会の変化に対応し得る基礎的能力を養う。
3. 人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 保健医療福祉システムと他職種との役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々への看護を提供するための基礎的能力を養う。
5. 専門職業人として最新知識・技術を自ら学び続け、看護師として自己成長できる基礎的能力を養う。

# アドミッション・ポリシー（本校が求める入学者像）

本校では教育の理念に基づき、協同の精神を柱に保健・医療・福祉の向上を目指し、社会に貢献できる看護実践者の育成を目指します。そのため、入学生には以下のような人材を求めます。

1. 誠実でやさしさ、思いやりのある人
2. 周囲の人と協力し合い、自分の役割を果たせる人
3. 准看護師として一定レベルの学力を有し、より専門的知識・技術・態度の修得に向けて努力できる人
4. 看護師として社会に貢献するという明確な目的意識を持っている人
5. 生活・健康の自己管理ができ、責任ある行動がとれる人

## ディプロマ・ポリシー（期待される卒業生像）

所定の課程を修め、68単位の単位修得条件を満たした上で、次のような能力を備えた者に卒業を認定し、専門士（医療専門課程）称号を授与します。

### 人間力

1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。

### 思考力

2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。

### 行動力

3. 主体性をもちながら、他へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。

4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。

### 創造力

5. 看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。

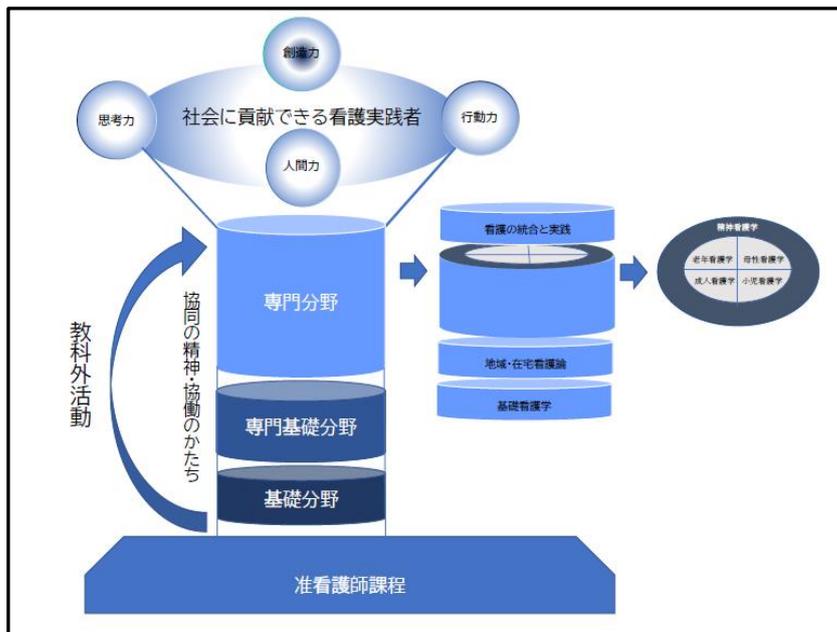
6. 変化を恐れず、新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。

## カリキュラム・ポリシー（教育の8つの柱）

教育理念とディプロマ・ポリシーに示された到達目標を達成するため、8つの教育の柱を定め、カリキュラムを編成します。

1. 人間尊重に基づいた温かで誠実な心を育み、生命の尊さと価値観の多様性を認識し、人間を統合された存在として幅広く理解する基礎的能力を育む。
2. コミュニケーション能力を養い、共感能力を身につける。
3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。
4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。
5. 情報通信技術（ICT）を活用する能力を身につけ、仲間と共に学び合い、能動的で自律的な学修態度を養う。
6. 保健医療福祉における看護の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら問題解決できる実践能力を養う。
7. 看護について探求心を持ち、継続して学ぶ姿勢を養う。
8. 学修成果の評価は、シラバスに明示された到達目標と成果を示す小テスト・単位認定試験・レポートや授業への参加態度、実習評価などを含め、多様な方法で総合的に行う。また、学修の取り組みについて学生自身が自己評価を行い、課題解決に向けて取り組む姿勢も評価する。

カリキュラム・ポリシーを可視化し、教育課程の有機的つながりを明らかにするために、教育課程構造図を策定します。



### 教育課程構造図説明文

本校の教育理念である「社会に貢献できる看護実践者の育成」のために、教育目標の到達を目指し、卒業時には、人間力・思考力・行動力及び創造力の4つの力が身についている看護師として社会に巣立つことができるよう教育課程を編成する。本校の教育課程は「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」の3分野で構築する。

基礎分野は、「科学的思考の基盤」、「人間と生活・社会の理解」について学ぶ。人間と社会を幅広く理解し、科学的思考力及びコミュニケーション能力、情報通信技術（ICT）を活用する能力を高め、感性を磨き、幅広い考えから判断と行動を促す内容とし、専門基礎分野及び専門分野を学ぶ土台とする。

専門基礎分野は、「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」について学ぶ。看護学の観点から人体を系統的に理解し、健康・疾病・障がいに関する観察力、判断力を身につけ、臨床判断能力を養う。人々が生涯を通じ健康や障がいの状態に応じて社会資源を有効に活用できるよう支援するために必要な知識と基礎的能力を養う。

専門分野は、「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と実践」について学ぶ。「基礎看護学」では、全ての看護学に共通の基礎的理論や技術を学び、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、看護の展開方法等を学ぶ。「地域・在宅看護論」では、すべてのライフサイクルの特性を踏まえ、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ。また地域における看護の役割や多職種との協働や連携について学ぶ。

人間の誕生から死に至る人の一生に関わる看護学として「母性看護学」「小児看護学」「成人看護学」「老年看護学」「精神看護学」の5つの看護学を構築する。人間の成長発達は、加齢に伴う変化過程であり、常に連続体であるため、ライフサイクル各期の特徴と健康上の課題を明らかにし、多様なニーズや場の特徴を踏まえながら、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を育成する。「精神看護学」は、あらゆる発達段階に関わる心の健康と健康問題について学ぶ。「看護の統合と実践」は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学修した知識・技術を統合し、卒業後、臨床現場に適応できることを目的に、臨床の実務に近い看護内容や方法を学ぶ分野とする。

知識や技術の統合を図り、看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うとともに、看護専門職として自己を省察する能力を身につけるための臨地実習は、2～3年次に配置する。また3年間にわたり、看護師国家試験受験資格に必要な科目を系統的に配置する。教育方法は、准看護師課程からの積み上げ教育を意識し、協同の精神を醸成し協働のかたちの基盤となるよう工夫する。

これらの教育内容と共に、教科外活動を含む教育の過程における様々な経験の積み重ねにより、豊かな人間性を育み、社会に貢献するための思考力、行動力を備え、時代のニーズに応える創造力をもつ看護実践者として自己成長できる基盤を養う。

## 1. 講義要綱(シラバス)の見方

### 1) 授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧

本年度の本校で学ぶ全ての「授業科目」「単位数」「時間数」「授業科目の配当学年」「担当する講師及び担当時間」、「試験の担当講師」等について記載しています。 授業科目の担当講師の確認や試験内容、授業時間の確認などに利用して下さい。

授業科目の中には、1つの授業科目を複数の講師で担当する科目や1つの授業科目の単位認定を複数の試験で行う授業科目もあります。また、単位認定試験の受験資格も授業科目により異なるものもあります。特に「担当講師の試験組み合わせ」の項目の\*マークのついている授業科目は、履修条件に注意が必要です。各授業科目の講義要綱(シラバス)と照らし合わせて、確実に確認しておきましょう。また、履修規程の「Ⅱ. 学科単位修得」の項と関連させて参照してください。

### 2) 各授業科目のシラバスの解説

各項目には、次の内容が、書かれています。学習を進める際の参考にして下さい。

#### ①科目名

授業科目の名称です。

#### ②担当講師

今年度、科目を担当する講師名です。

#### ③単位数(時間数)

授業科目の単位数と( )内には、授業科目の総時間数が書かれています。

複数の担当講師の場合、各々の時間を明記しています。

#### ④配当年次

配当年次とは、授業が行われる学年を表しています。その学年にならないとその授業科目を受けることはできません。但し、自分の年次(学年)以下で開講している授業科目については、履修することができます。

#### ⑤科目の概要

この授業科目で学ぶ内容の概要です。当該科目の領域や社会における有用性を説明すると共に、既習内容との関係を配慮して、関連科目との体系的・構造的関係を記載しています。

⑥到達目標

受講後に期待される姿です。理解して欲しい知識や修得して欲しい技術、身につけて欲しい態度や能力などを具体的に記載しています。

⑦授業方法

講義や演習など授業の形態です。

⑧授業計画

毎回の授業テーマや授業内容が記載されています。

⑨成績評価の方法

単位認定のためにどのように成績を評価するのかを記載しています。評価の具体的な方法と配点基準です。単位認定試験や課題の提出状況、出席状況、授業態度等、評価方法は、各授業科目により異なります。

⑩履修上の注意

この授業科目を履修する上で必要となる注意事項です。

⑪一言アドバイス

学習する上での留意点や発展的に学習を進めるにあたってのポイントが記載されています。

⑫教科書

この授業科目で使用する教科書です。

⑬参考文献

学習を深める際に参考にするとよい文献です。



専門分野	地域・在宅看護論	地域で暮らす人と健康	1	30		1試験	30	10 14 6		
		地域・在宅看護概論	1	30		1試験	30	24 6		
		地域・在宅看護援助論	1	30	1	1試験	30	30	* 平 晴 奈	
		地域・在宅療養者の状態別看護	1	30	1	1試験	30	8 2 2 18	* 近 藤 祐 子 * 金 子 和 美 * 木 場 満 江 * 平 晴 奈	
		多職種連携活動論	1	30		1試験	30	24 6		
専門分野	成人看護学	成人看護学総論	1	30		1試験	30	30		
		成人臨床看護の実際Ⅰ	循環器障害	1	30		1試験*	16	8	
			消化・吸収障害						8	
			血液・造血器障害				1試験*	14	6	
	呼吸器障害		8							
	成人臨床看護の実際Ⅱ	内分泌・代謝障害	1	30	1	1試験*	16	8	* 山 口 裕 子	
		腎機能障害						4	* 飛 田 光 太 郎	
		泌尿器機能障害						4	* 永 川 俊 介	
		運動器障害				1試験*	14	8	* 手 水 睦 子	
		中枢神経障害						6	* 森 塚 倫 也	
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		1試験	30	30		
		老年看護援助論	1	30	1	1試験	30	30	* 中 村 加 代 子	
		老年期に特有な障害と看護	1	30	1	1試験	30	4 26	* 山 崎 二 郎 * 中 村 加 代 子	
小児看護学	小児看護学概論	1	30	1	1試験	30	30	* 西 山 美 奈 子		
	小児臨床看護総論	1	30	1	1試験	30	14 16	* 土 居 浩 * 西 山 美 奈 子		
	小児臨床看護の実際	1	30	1	1試験	30	8	* 島 田 啓 太		
							2	* 原 博 隆		
4							* 野 口 早 世			
16							* 西 山 美 奈 子			
母性看護学	母性看護学概論	1	30	1	1試験	30	17 13	* 中 野 真 由 美 * 山 崎 香 代 子		
	周産期の正常な経過とハイリスク	1	30	1	1試験	30	14 6 10	* 宮 下 昌 子 * 中 野 真 由 美 * 山 崎 香 代 子		
	周産期にある人の看護	1	30	1	1試験	30	10 20	* 島 田 紗 代 子 * 中 野 真 由 美		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	1試験	30	30		
心の健康のための治療と看護		1	30	1	1試験	30	10 10 10	* 神 宮 司 多 門 * 松 尾 勝 久 * 鎌 田 美 和 子		
精神看護の実際		1	30	1	1試験	30	8	* 野 田 博 明		
							6	* 照 沼 将 志		
	2						* 園 田 正 隆			
14	* 山 口 奈 津 子									
看護の統合と実践	看護管理	1	15		1試験	15	10 2 2			
							R	1		
							医療安全	1	30	1
	災害看護と国際協力	1	30		1試験	30	2 28			
	臨床看護の実際	1	45		1試験	45	33 12			

※ 試験及び評定に関して、「履修規程」をよく参照すること。

\* 実務経験のある教員

※ \*は、「履修規程」Ⅱ. 学科単位修得【受験資格】及び【成績及び評価について】の項を参照する

※「R」はレポート提出がある科目。詳細はシラバスで確認すること。

# 基礎分野

科目名	情報科学	担当講師	*江川 明美
単位数 (時間数)	1 ( 30 )テスト含む	配当年次	2
科目の概要	本科目では,看護の世界における「情報の活かし方」と,それに伴い必要になる「倫理観」について理解を深める。それらを踏まえて,情報処理の中でも特に「データの収集と集計」に重点をおいて学習することで ICT を活用できる基礎的能力を養う内容とする。		
到達目標	1.情報とは何かを知り,その「活かし方と守り方」をだれかに説明ができるようになる。 2.コンピュータのしくみや利用方法を学ぶ。 3.情報収集や研究活動のための「調査方法」と「集計・分析」の基礎を学び,集めたデータの考察ができるようになる。		
関連科目	日本語表現法 看護研究 フィジカルアセスメント 看護過程と看護臨床判断		
CP・DPとの関連	CP5.最新知識・技術を自ら学び続け,看護の質の向上を図る能力を身につける機会を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し, 共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 科学を探究し, 批判的で論理的な思考ができ, 適切な判断力を身につけている。 DP5. 看護師としての使命感を持ち, 時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。 DP6. 変化を恐れず, 新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	授業の概要 / 情報化とデジタルなツール①	講義
	2	情報化とデジタルなツール②	講義
	3	医療・看護と情報① -病院情報システム-	講義
	4	医療・看護と情報② -医療とインターネット-	講義
	5	調査とは①	講義
	6	調査とは② -変数と尺度-	講義
	7	調査とは③④ -アンケートのコツ-言葉づかい	講義
	8	模擬問題	講義
	9	調査とは⑤ -アンケートのコツ- / 集計・分析・考察① -分析の視点-	講義・演習
	10	集計・分析・考察② -結果の記述と考察-	講義・演習
	11	集計・分析・考察③④ -クロス集計の記述-代表値を知ろう	講義・演習
	12	模擬問題	講義・演習
	13	集計・分析・考察⑤ -回帰直線といろいろなグラフ-	講義・演習
	14	集計・分析・考察⑥ -検定の考え方-	講義・演習
15	まとめ / 単位認定試験	講義・試験	
成績評価	単位認定試験 (100%)		
履修上の アドバイス	コンピュータ (Excel) を用いた演習を行うことがあるため,Excel の基礎的な操作方法を理解していることが望ましいです。Excel を用いた演習は,講義時間外にも各自で取り組むよう心掛けてください。質問がある場合は担当教員までメールで問い合わせてください。		
テキスト	「看護・医療系のための情報科学入門」 サイオ出版		
参考文献	随時紹介		

\*実務経験のある教員

科目名	運動生理学	担当教員	小原 達朗
単位数（時間数）	1（15）テスト含む	配当年次	2
科目の概要	身体活動時および運動時の人体機能の生理的変化について学び、運動処方やリハビリテーションの基礎的理解を図る。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療や看護分野と運動生理学の知識とを結びつけることができる。</li> <li>2. 本科目で学んだ知識を自らの日常生活で活用・実践できる。</li> <li>3. 本科目で学んだ知識を実際の看護の現場で活用・実践できる。</li> <li>4. 身体活動や運動を通じた健康教育指導ができる。</li> <li>5. 健康問題や生き方について深く考えることができる。</li> </ol>		
授業方法	講義および演習		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体力の捉え方</li> <li>2. 運動と筋機能</li> <li>3. 運動と代謝・エネルギー</li> <li>4. 運動と神経機能</li> <li>5. 運動と呼吸循環機能</li> <li>6. 生活習慣病と運動</li> <li>7. 運動処方とスポーツトレーニング</li> <li>8. 単位認定試験</li> </ol>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的な参加度（20%）</li> <li>・単位認定試験（80%）</li> </ul>		
一言アドバイス	講義は、実生活や生活実践に即して具体的な事例を踏まえて行います。受講生の方も看護の現場や生活場面を想定しながら受講すると理解がより深まるものと考えられます。		
教科書	特に指定しないが、生理学で使用している教科書を利用する。 講義資料は随時配布する。		
参考文献	特に指定しない		

科目名	人間関係論	担当講師	*土居 隆子
単位数 (時間数)	1 ( 30 )	配当年次	2
科目の概要	看護行為は人と人の関係の上に成り立つ。看護者は専門性をチーム医療の中での医師・看護職・事務・その他専門職との関わり、看護行為では患者・家族などとの関わりの中で発揮し、同時に生活者として家庭・地域と関わる力コミュニケーション能力が求められる。本講義では人と人が関係し合いながら交流する時、そこで起きている事象をコミュニケーション理論と認知の仕方を通じて理解し看護行為を行う為、適切に支援する知識と技術を学ぶ。		
到達目標	人間関係のあり方を、 ①自分を知る(自己理解) ②人とコミュニケーションする(他者理解)力をつける ③複数の人間関係をつくる。(相互交流・共同体感覚)チームワークが出来るようになる 3段階で講義とワークを通じて学んでゆく。		
CP・DPとの関連	CP2.コミュニケーション能力を養い、共感能力を身につける。 DP3.主体性をもちながら、他へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	人間関係総論 本講義の目的	講義
	2	自分を知る	講義・演習
	3	自己概念	講義・演習
	4	価値観とは	講義・演習
	5	思い込みについて	講義
	6	コミュニケーション	講義・演習
	7	話す・聞く・聴く・訊く	講義
	8	サインとしての「からだ」	講義
	9	感情表出	講義・演習
	10	他者を理解する・交わる (3時間授業)	講義・演習
	11	葛藤とのつきあい方	講義
	12	自己開示とフィードバック	講義
	13	ストレスマネジメント (3時間授業)	講義・演習
14	職場の人間関係(ハラスメントを考える)	講義	
成績評価の方法	単位認定試験(自筆ノートと講義資料・レポート持ち込み可)70%と講義時のレポート(30%)		
履修上のアドバイス	テキストを忘れないように。テキストに沿って、実際にワークを行いながら自分自身を理解し、他者とのかかわりの癖を見つけていきます。講義開始前に自分の日ごろの人間関係について考えてきてください。		
テキスト	星野欣生著 「人間関係づくりトレーニング」 金子書房		
参考文献	必要時、提示します。		

\*実務経験のある教員

# 專門基礎分野

科目名	疾病と治療論Ⅴ	担当講師	*角尾尚人：内分泌・代謝 *塚崎尚紀：耳鼻咽喉 *山本広樹：眼 *石丸志帆子：皮膚	12時間 6時間 6時間 6時間
単位数(時間数)	1(30)	配当年次	2	
科目の概要	疾病を持つ人々への個別的な看護を展開するために、様々な疾病がもたらす身体内部の変化(病態)や検査・治療を理解する内容とする。			
到達目標	1. 各臓器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状と病態生理について理解する。 3. 検査データと病態との関連性を理解できる。 4. 主な疾患の病態生理とその治療について理解する。			
CP・DPとの関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。			
授業計画	回	学習内容		方法
	内分泌・代謝(角尾尚人)			
	1	内分泌・代謝器官の構造と機能		講義
	2	内分泌・代謝:疾患と治療①(糖尿病)		講義
	3	内分泌・代謝:疾患と治療②(脂質異常症)		講義
	4	内分泌・代謝:疾患と治療③(肥満症とメタボリックシンドローム, 尿酸代謝異常)		講義
	5	内分泌・代謝:疾患と治療④(視床下部-下垂体疾患, 副腎疾患)		講義
	6	内分泌・代謝:疾患と治療⑤(甲状腺疾患, 副甲状腺疾患)		講義
	耳鼻咽喉(塚崎尚紀)			
	1	聴覚の構造と機能, 診断と治療, めまいの臨床(メニエール病)		講義
	2	鼻・咽頭部の構造と機能, 鼻・咽頭部疾患の診断と治療, 鼻アレルギー		講義
	3	喉頭の構造と機能, 咽・喉頭疾患の診断と治療, 喉頭腫瘍の臨床		講義
	眼(山本広樹)			
	1	眼の構造と機能, 検査と治療		講義
	2	症状と病態生理(視機能に関連した症状)		講義
	3	主な疾患と検査・治療		講義
	皮膚(石丸志帆子)			
	1	疾患と治療①(湿疹, アトピー性皮膚炎)		講義
	2	疾患と治療②(帯状疱疹)		講義
	3	疾患と治療③(疥癬)		講義
成績評価の方法	単位認定試験:内分泌・代謝試験(100%) 耳鼻咽喉試験(100%) 眼試験(100%) 皮膚試験(100%)			
履修上のアドバイス	単位認定は、内分泌・代謝試験, 耳鼻咽喉試験, 眼試験, 皮膚試験により行う。4つの試験に合格することを単位認定の条件とする。各試験の受験資格は、内分泌・代謝, 耳鼻咽喉, 眼, 皮膚の各々の時間数の2/3以上の出席とする。			
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚」医学書院			
参考文献	「生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖と生理第3版」医学映像教育センター			

\*実務経験のある教員

科目名	社会福祉	担当講師	*岩永 耕
単位数(時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	2
科目の概要	本講は、社会保障制度や社会福祉制度の全体的な枠組みや各種のサービス内容および専門職員の役割等を理解することによって、医療・福祉分野におけるスタッフ間の連携や支援体制の構築をめざす。このため、現行の社会資源や援助技術の理解習得に最も力点を置くが、同時に医療・福祉分野における今後の課題や展望についても概観する。		
到達目標	1. 社会福祉の基本的な枠組みを理解する。 2. 社会保障制度の全体的な枠組みを理解する。 3. 社会資源の活用法と、医療との連携のあり方などを身につける。		
授業方法	講義形式		
授業計画	1～2. 社会福祉の基本的枠組み ①福祉とは何か ②三つのH ③専門性と一般性 3～4. 社会福祉の歴史 ①歴史的課題 ②古代～近代(慈善から社会事業へ) ③近代～現代(福祉国家から福祉社会へ、施設から在宅へ) 5～6. 社会福祉の定義と概念 ①定義 ②概念 ③社会福祉と社会保障 ④公的扶助と社会保険 7～8. 社会保障制度 ①所得保障 ②医療保障 ③介護保障 9～11. 社会資源 ①法律体系 ②福祉六法 ③介護保険法 ④精神保健福祉法 ⑤障害者自立支援法 ⑥関連法 12～13. 援助技術 ①ケースワーク ②グループワーク ③コミュニティワーク 14. これからの医療と福祉 ①先進国に学ぶ ②医療と福祉の連携 15. 単位認定試験		
成績評価の方法	小レポートの課題(10%) 単位認定試験(90%)		
履修上の注意点	認定試験だけでなく、小レポートの課題なども評価の対象とするので、未提出とならないよう注意しておくこと。		
一言アドバイス	福祉は、単に法律や制度などの知識の修得にとどまらず、支える側の人間観や人権意識などを問い直す視点も重要なテーマとなっているので、自分自身の生き方や人(患者さん)の見方などを問い直したり、考えたりする視点などとも関連づけながら講義に臨んでほしい。		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度[3] 医学書院 ※適宜、資料やプリント等を配布する		
参考文献	・厚生省の指標 臨時増刊『国民の福祉の動向』(厚生統計協会) ・厚生労働省編『厚生労働白書』(ぎょうせい)		

\*実務経験のある教員

科目名	関係法規	担当講師	*圓能寺 貞子
単位数 (時間数)	1 ( 15 )テスト含む	配当年次	2
科目の概要	看護をはじめ医療の仕事は、人間の生命に直接関与するため、そこに携わる人々の資格や業務内容は法律で厳格に規定されている。健康障害の有無にかかわらず、対象者に質の高い看護を提供するために、保健医療福祉の政策とそのサービスを理解する。これらの法令と看護との関係を考え、日常生活や実習での経験、新聞・ニュース等の情報を交えながら学習し理解を深める。但し、分野別保健法および感染症に関する法、社会保険法・福祉法については、他の科目で学ぶこととする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職業人としての任務を果たすために、看護師に関する主な法令を理解する。</li> <li>2. わが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を理解する。</li> <li>3. 労働者としての法的知識を習得する。</li> </ol>		
CP・DP との関連	<p>CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。</p> <p>CP6. 保健医療福祉における看護の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら問題解決できる実践能力を養う。</p>		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	法の概念, 主な衛生法, 厚生行政の仕組み	講義
	2	看護法: 保健師助産師看護師法, 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義
	3	医事法: 医師法, 医療法, 医療関係資格法(定義・免許・試験・業務)	講義
	4	保健衛生法: 地域保健法, 健康増進法, 検疫法, 食品に関する法	講義
	5	薬務法: 薬事一般に関する法律、麻薬・毒物等に関する法	講義
	6	環境衛生法: 営業に関する法, 環境整備に関する法	講義
	7	労働法(労働基準法・労働安全衛生法), 社会基盤整備	講義
	8	単位認定試験	試験
成績評価の方法	単位認定試験 100%		
履修上の アドバイス	教科書印刷以降に法律改正があった場合は、講義による修正がなされることがあるので注意しておきましょう。また、法令や動向は常に変化しているので、新聞やニュースに関心をもっておきましょう。		
テキスト	「系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度[4]」医学書院		
参考文献	「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 「新版看護師の基本的責務」日本看護協会出版会		

\*実務経験のある教員

科目名	公衆衛生学	担当講師	水上 諭
単位数（時間数）	1（15）テスト含む	配当年次	2
科目の概要	公衆衛生学の目的は、身近にいる生活者の様々な健康問題を取り上げ、生命尊重の立場を貫き、健康で活力ある福祉社会をつくりあげることにある。つまり、公衆衛生学とは、生活者の健康の保持・増進を目的に、常に個々の住民の要請を捉えつつ、広く地域に対する政策から実施に向けた活動をするための実践的学問である。本科目では、公衆衛生活動における看護の役割を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人口の動向を知り、人口問題とそれにより生じる公衆衛生上の問題を理解する。</li> <li>2. 公衆衛生における予防医学の重要性を知り、国際的に注目されている感染性疾患についての疫学と予防の取り組みを理解する。</li> <li>3. 生活習慣病の成り立ちについて理解し、生活習慣が健康に及ぼす影響を考える。</li> <li>4. 生活環境が健康に及ぼす影響を知り、公衆衛生活動の役割を考える。</li> <li>5. 人々の健康を保持・増進するための公衆衛生活動の実際を学ぶ。</li> </ol>		
授業方法	講義		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生学の概念・公衆衛生の定義</li> <li>2. 疫学保健統計</li> <li>3. 社会保障と医療経済・成人保健と健康増進</li> <li>4. 母子保健</li> <li>5. 高齢者保健・介護保険</li> <li>6. 産業保健・環境保健</li> <li>7. 感染症の疫学</li> <li>8. 単位認定試験</li> </ol>		
成績評価の方法	単位認定試験（100%）		
一言アドバイス	公衆衛生は範囲が広いので、それぞれの内容をよく学習するようにしてください。		
教科書	公衆衛生がみえる      メディックメディア		

# 専門分野

基礎看護学

科目名	臨床看護総論	担当講師	* 渡邊 令子
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	2
科目の概要	本科目は、看護を行う上で必要な看護の思考過程を身につけることをねらいとする。事例を通して、病態生理や治療・処置、看護学で学んだ学習内容を活用し、健康障害をもつ対象者の理解と患者の問題解決に向けた看護の展開方法や臨床判断能力を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療および看護における様々な知識を統合することができる。</li> <li>2. 患者に起こっている病状とその治療について理解することができる。</li> <li>3. 臨床推論・臨床判断の基本的考え方を理解し、状況に応じた判断の考え方が理解できる。</li> <li>4. 事例に応じた看護過程の展開ができる。</li> <li>5. 自己の課題解決に向けて積極的に取り組むことができる。</li> <li>6. 協同学習を行い、共に学び合うことができる。</li> </ol>		
CP・DPとの関連	CP4.健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	臨床判断・臨床推論とは	講義・演習
	2	事例場面の臨床判断の実際①	講義・演習
	3	事例場面の臨床判断の実際②	講義・演習
	4	事例の看護過程の展開①対象理解のための文献学習	講義・演習
	5~9	事例の看護過程の展開②アセスメント	講義・演習
	10・11	事例の看護過程の展開③問題の明確化	講義・演習
	12	事例の看護過程の展開④看護計画	講義・演習
	13・14	事例の看護過程の展開⑤関連図	講義・演習
	15	単位認定試験	試験
成績評価の方法	看護過程レポート(70%)、筆記試験(30%)		
履修上のアドバイス	チューター制を設けて、指導を行います。わからないことをわからないままにしないことが大切です。皆さんからの積極的な質問をお待ちしています。		
テキスト	「系統学看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 医学書院」 「看護過程の展開に沿った実習記録の書き方とポイント」 サイオ出版		
参考文献	必要時、文献の紹介や資料を配布します。		

\*実務経験のある教員

科目名	看護研究	担当講師	*田中 伸子 *山口 奈津子(テスト含む)	10 時間 20 時間
単位数 (時間数)	1( 30 )テスト含む	配当年次	2	
科目の概要	日常の看護場面で生じる事象に対し,疑問や問題意識を持つことができ,新たな知見や技術を見出すための看護研究について理解する。			
到達目標	1. 看護研究の意味を理解し,研究の必要性を認識することができる。 2. 看護研究の実践者・協力者としての基本的な知識や方法,態度を身につけることができる。 3. 看護研究を行い,発表することができる。			
CP・DP との関連	CP3.専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。 CP7.看護について探求心を持ち,継続して学ぶ姿勢を養う。 DP2.批判的で論理的な思考を身につけ,科学を探求し,適切な判断力を身につけている。			
授業計画	回	学習内容		方法
	1	研究とは 1)看護研究と看護実践 2)クリティカルシンキング <sup>o</sup>		講義・演習
	2	情報を探索し吟味する 1)文献検索の意義と方法 2)クリティーク		講義・演習
	3	研究における倫理的配慮について考える		講義・演習
	4	研究デザインを決定する 1)実験研究 2)仮説検証型研究 3)実態調査研究 4)事例研究 5)文献研究		講義・演習
	5	研究を計画する 研究計画書の作成		講義・演習
	6	研究計画書の意義と作成上の注意点,研究計画書の形式		講義・演習
	7	研究の概念枠組みと仮説を立てる 1)概念枠組みの構築 2)変数の明確化 3)仮説の設定		講義・演習
	8	データを収集し分析する 1)母集団と標本抽出 2)データの収集方法 3)データの集計 4)記述統計と推定統計		講義・演習
	9	研究結果の表現方法 1)研究発表の形式 2)研究論文の構成方法 3)研究論文の評価 4)データ分析 5)抄録作成		講義・演習
	10			
	11			
	12	研究成果を伝える 1)プレゼンテーション 2)パワーポイントの作成 3)発表原稿の作成 4)発表準備		講義・演習
	13			
	14	看護研究発表会		
15	まとめ / 単位認定試験			試験
成績評価の方法	単位認定試験(60%) 研究論文(30%) 研究発表(10%)			
履修上の アドバイス	1年間をとおして看護研究を体験的に学ぶ科目です。事実とは何か,クリティカルシンキングとはどのような態度であるのか,疑問を持ちながら主体的に学ぶことを期待しています。看護研究を体験する単元はチューター制による授業で進行します。仲間と共に学ぶ楽しさを体験してみましょう。			
テキスト	「系統看護学講座 別巻 看護研究」医学書院			
参考文献	「看護における研究」日本看護協会出版会			

\*実務経験のある教員

# 地域・在宅看護論

科目名	地域・在宅看護援助論	担当講師	*平 晴奈	30 時間
単位数 (時間数)	1 ( 30 )テスト含む	配当年次	2	
科目の概要	在宅で生活しながら療養する人,あるいは,障害を持つ人とその家族に対し,在宅看護で必要とされる日常生活を支える上でのアセスメント方法と基本的な技術を学ぶ。			
到達目標	目標1. 在宅看護における基本技術が修得できる。 目標2. 在宅におけるフィジカルアセスメントの理解ができる。 目標3. 在宅における日常生活のアセスメントが理解できる。 目標4. 在宅における日常生活支援の方法と技術の理解ができる。 目標5. 在宅におけるケアマネジメントの展開過程の方法が理解できる。			
CP・DPとの関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し,科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP4. 対象の状態に応じた,確かな看護技術力を身につけている。			
授業計画	回数	学習内容		方法
	1	暮らしの場で看護をするための心構え		講義、演習
	2	在宅療養における看護の特徴 生活機能・療養環境や家族のアセスメント		講義、演習
	3	在宅におけるケアマネジメント① サービスの調整の理解		講義、演習
	4	在宅におけるケアマネジメント② ケアマネジメントの過程		講義、演習
	5	在宅におけるケアマネジメント③ サービス担当者会議		講義、演習
	6	在宅看護における基本技術① 訪問看護におけるマナー		講義、演習
	7	在宅看護における基本技術 ② 訪問看護におけるマナー		講義、演習
	8	在宅看護における基本技術 ③ コミュニケーション技術 対象者と看護師のパートナーシップ		講義、演習
	9	在宅看護における基本技術 ③ 安全を守る看護 リスクマネジメント		講義、演習
	10	日常生活を支える看護技術① フィジカルアセスメント		講義、演習
	11	日常生活を支える看護技術② 食事・活動・排泄・清潔・休息		講義、演習
	12	日常生活を支える看護技術③ 食事・活動・排泄・清潔・休息		講義、演習
	13	日常生活を支える看護技術④ 食事・活動・排泄・清潔・休息		講義、演習
	14	日常生活を支える看護技術⑤ 食事・活動・排泄・清潔・休息		講義、演習
15	単位認定試験		筆記試験	
成績評価の方法	単位認定試験(90%) レポート課題(10%)			
履修上の アドバイス	地域・在宅看護概論で学んだ知識を活用する必要があります。事前学習や講義のレポート課題に積極的に取り組みましょう。レポート課題も評価対象となるため,提出方法・提出内容については注意を払い,提出期限は厳守しましょう。 事例を通して学ぶ際には,教育用電子カルテを使用する機会がありますので,積極的に利用して学習を進めましょう。			
テキスト	地域・在宅看護論 1	地域・在宅看護の基盤	医学書院	
	地域・在宅看護論 2	地域・在宅看護の実践	医学書院	
参考文献	随時,紹介します。			

\*実務経験のある教員

科目名	在宅療養者の状態別看護	担当講師	*近藤祐子： 8時間 *金子和美： 2時間 *木場満江： 2時間 *平晴奈（テスト含む）：18時間
単位数 (時間数)	1 ( 30 ) テスト含む	配当年次	2
科目の概要	在宅療養する対象の病期（状態）別看護および医療管理について事例や演習を通して学ぶ。		
到達目標	目標1. 病期や、介入時期と看護の継続性が理解できる。 目標2. 医療管理が必要な在宅療養者の看護が理解できる。 目標3. 在宅療養する対象の看護過程の展開が理解できる。		
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	介入時期と看護の継続性1 ①外来、入院、在宅療養準備期の看護	講義、演習
	2	介入時期と看護の継続性2・ ②在宅への移行期 ③在宅療養の安定期 ④在宅リハビリテーション期	講義、演習
	3	介入時期と看護の継続性3 ⑤急性憎悪期 ⑥終末期、グリーフケア ⑦継続看護の意義と方法	講義、演習
	4	暮らしの場で行われる治療と看護1 ・褥瘡の予防と処置 ・経管栄養 ・嚥下困難 (近藤)	講義
	5	暮らしの場で行われる治療と看護2 ・輸液、在宅中心静脈栄養 ・在宅酸素療法 (近藤)	講義
	6	暮らしの場で行われる治療と看護3 ・膀胱留置カテーテル ・ストーマ管理 (近藤)	講義
	7	終末期にある療養者の看護 疼痛緩和 緊急時の看護 グリーフケア (近藤)	講義
	8	暮らしの場で行われる治療と看護4 ・在宅人工呼吸療法・非侵襲的陽圧換気療法 精神に障害がある療養者の看護 (金子)	講義
	9	子どもの療養者の看護 医療的ケア児を取り巻く環境 (木場)	講義
	10	認知症療養者の看護	講義、演習
	11	難病療養者の看護	講義、演習
	12	看護過程の展開①	演習
	13	看護過程の展開②	演習
	14	看護過程の展開③	演習
15	単位認定試験	筆記試験	
成績評価の方法	単位認定試験 100% ( 学校教員 70% 訪問看護師 30%配点 ) レポート含む		
履修上の アドバイス	様々な発達段階や疾患の医療依存度の高い療養者の訪問看護について理解するために、在宅療養者の治療管理の実際を学べるよう訪問看護師による講義があります。		
テキスト	地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院		
参考文献	よくわかる在宅看護 (Gakken)・写真でわかる訪問看護アドバイス (インターディカ)		

\*実務経験のある教員

# 成人看護学

科目名	成人臨床看護の実際Ⅱ	担当講師	*山口 裕子:内分泌・代謝障害 *飛田 光太郎:腎機能障害 *永川 俊介:泌尿器機能障害 *手水 睦子:運動器障害 *森塚 倫也:中枢神経障害	8時間 4時間 4時間 8時間 6時間
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	2	
科目の概要	内分泌・代謝機能, 中枢神経機能, 腎・泌尿器機能, 運動機能障害をもつ対象への看護を理解する。			
到達目標	1. 腎・泌尿器障害を持つ患者の看護について理解できる。 2. 内分泌・代謝機能障害を持つ患者の看護について理解できる。 3. 運動機能障害を持つ患者の看護について理解できる。 4. 中枢神経機能障害を持つ患者の看護について理解できる。			
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し, 科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ, 科学を探究し, 適切な判断を身につける。 DP4. 対象の状態に応じた, 確かな看護技術力を身につけている。			
授業計画	回数	学習内容		方法
	内分泌・代謝機能障害			
	1	脂質異常症, 肥満症, 尿酸代謝異常患者の看護		講義
	2	甲状腺機能障害の患者の看護		講義
	3	糖尿病患者の看護①		講義
	4	糖尿病患者の看護②(血糖測定演習)		講義・演習
	腎機能障害			
	1	内科的治療を受ける患者の看護①(ネフローゼ症候群, 腎不全)		講義
	2	内科的治療を受ける患者の看護②(透析治療, 腹膜透析)		講義
	泌尿器機能障害			
	3	泌尿器疾患患者の看護①(導尿, 手術療法)		講義
	4	泌尿器疾患患者の看護②(薬物療法, 放射線療法)		講義・演習
	運動機能障害			
	1	保存療法を受ける患者の看護(ギプス固定, 牽引療法)		講義
	2	手術療法を受ける患者の看護(人工関節置換術)		講義
	3	経過に応じた患者の看護(急性期, 回復期, 慢性期)		講義
	4	疾患を持つ患者の看護(大腿骨頸部骨折, 椎間板ヘルニア, 脊髄損傷, 腰痛)		講義
	中枢神経機能障害			
	1	症状・障害を持つ患者の看護(主な症状と観察のポイント)		講義
	2	開頭術を受ける患者の看護(術前・術中・術後の管理)		講義
3	脳梗塞患者の看護(急性期, 回復期)		講義	
成績評価の方法	単位認定試験: 内分泌・代謝機能障害 + 腎・泌尿器機能障害 100% (内分泌・代謝 50% 腎 25% 泌尿器 25%) 運動機能障害 + 中枢神経機能障害 100% (運動機能 60% 中枢神経 40% 配点)			
履修上の アドバイス	単位認定は, 内分泌・代謝機能障害試験 + 腎・泌尿器機能障害試験, 運動機能障害試験 + 中枢神経機能障害試験により行います。2つの試験に合格することを単位認定の条件とします。各試験の受験資格は, 各々の試験組み合わせ時間数の2/3以上の出席としますので, 注意しましょう。			
テキスト	【内分泌】—「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝」 医学書院 【腎・泌尿器】—「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器」 医学書院 【運動器】—「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器」 医学書院 【中枢】—「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経」 医学書院			
参考文献	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 1 解剖生理学 メディカ出版 看護形態機能学 第3版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版			

\*実務経験のある教員

# 老年看護学

科目名	老年看護援助論	担当講師	*中村加代子
単位数 (時間数)	1 ( 30 ) テスト含む	配当年次	2
科目の概要	本科目は、高齢者を支える生活に視点を置き、加齢変化が日常生活に与える影響や治療そのものが高齢者の生活に与える影響を理解し高齢者の QOL を重視した看護を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の日常生活を支える基本動作と看護を理解できる。</li> <li>2. 高齢者のコミュニケーションと看護を理解できる。</li> <li>3. 検査・治療を受ける高齢者への看護を理解できる。</li> <li>4. 高齢者の健康段階に応じた看護の方法を理解できる。</li> </ol>		
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP4 対象の状態に応じた、確かな看護技術を身につけている。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	高齢者の日常生活を支える基本動作と看護	講義
	2	転倒とアセスメントと看護ケア	講義
	3	高齢者の清潔と看護	講義・演習
	4	高齢者の生活リズムと看護	講義
	5	高齢者のコミュニケーションと看護	講義・演習
	6	高齢者のセクシュアリティ	講義
	7	高齢者の排泄ケアと看護	講義・演習
	8	検査・治療を受ける高齢者への看護	講義
	9	高齢者の薬物療法と看護	講義
	10	高齢者の手術療法と看護	講義
	11	高齢者のリハビリテーション	講義
	12	高齢者の健康段階に応じた看護の方法 (急性期・回復期・慢性期)	講義
	13	高齢者の健康段階に応じた看護の方法 (終末期)	講義・演習
	14	高齢者の健康段階に応じた看護の方法 (エンドオブライフケア)	講義・演習
15	単位認定試験	講義	
成績評価の方法	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	受け身的な講義だけでなく演習を多く取り入れた授業形態をとります。積極的に参加しましょう。		
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」医学書院 老年看護学 概論と看護の実践 ニューヴェルヒロカワ		
参考文献	随時紹介します。		

\*実務経験のある教員

科目名	老年期に特有な障害と看護	担当講師	*山崎二郎 *中村加代子(テスト含む)	4時間 26時間
単位数 (時間数)	1 ( 30 )テスト含む	配当年次	2	
科目の概要	本科目は、老年期に特徴的な疾患や症状を理解し、それらの知識を使い老年期に特徴的な看護過程の展開を学び高齢者に関するアセスメント技術を強化する。高齢者が疾病や障害を持ちながら日常生活に適応し自立した生活が送れるようにQOLを重視した知識とその看護について理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者に特有な疾患の理解と看護</li> <li>2. 認知機能の障害に対する疾患と治療とその看護について理解できる。</li> <li>3. 高齢者に多い症状と障害の看護</li> <li>4. 高齢者の看護過程展開における特徴を理解できる。</li> </ol>			
CP・DP との関連	<p>CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。</p> <p>DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。</p>			
授業計画	回数	学習内容		方法
	1	うつ病・せん妄の疾患と治療 (山崎)		講義
	2	認知症の疾患と治療 (山崎)		講義
	1	廃用症候群とアセスメントと看護		講義
	2	褥瘡のアセスメントと看護		講義
	3	視聴覚・平衡覚のアセスメントと看護		講義
	4	食事・食生活のアセスメントと看護		講義
	5	排泄ケアのアセスメントと看護		講義
	1	認知症のアセスメントと看護		講義
	2	高齢者に多い症状と看護①		講義
	3	高齢者に多い症状と看護②		講義
	4	身体疾患のある高齢者の看護①		講義
	5	身体疾患のある高齢者の看護②		講義
	3	高齢者の看護展開		講義・演習
	7	高齢者の看護展開		講義・演習
8	単位認定試験			
成績評価の方法	単位認定試験 90% (山崎 30% 中村 60% 配点) 看護過程 10%			
履修上の アドバイス	受け身的な講義だけでなく演習を多く取り入れた授業形態をとります。積極的に参加しましょう。			
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」医学書院 「老年看護学 概論と看護の実践」ヌーヴェルヒロカワ			
参考文献	随時紹介します。			

\*実務経験のある教員

# 小児看護学

科目名	小児看護学概論	担当講師	* 西山美奈子
単位数(時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	2
科目の概要	小児看護学の対象の理解と、対象となる小児期の発達段階の特徴、発達過程に基づいた発達理論、発達評価などの基礎的知識を学び、子どもを取り巻く社会と子どもに関する法律や制度と子どもの権利を理解する。さらに学習した知識を活用して発達段階に応じた日常生活援助と健康管理について学習する科目である。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の対象と目標について述べることができる。</li> <li>2. 子どもの権利を尊重した看護について理解できる。</li> <li>3. 子どもの発達段階の特徴が理解できる。</li> <li>4. 小児看護における家族の位置づけについて理解できる。</li> <li>5. 子ども観を社会的状況、育児環境変化から理解し、現代の問題について考察できる。</li> <li>6. 小児医療と小児看護の変遷を理解し、これからの課題について考察できる。</li> <li>7. 子どもと家族を支援するための法律や施策について理解できる。</li> <li>8. 小児看護に用いられる理論を理解できる。</li> </ol>		
CP・DPとの関連	<p>CP3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。</p> <p>CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。</p> <p>DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につける。</p>		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	小児看護の対象・目標 小児看護の役割と責務	講義
	2	子どもの成長と発達①	講義
	3	子どもの成長と発達②	講義
	4	子どもの成長と発達③	講義
	5	成長・発達の評価と小児看護の基礎となる理論	講義
	6	小児を取り巻く社会と保健統計① 子どもを取り巻く社会	講義
	7	小児を取り巻く社会と保健統計② 保健統計からみる子どもの健康	講義
	8	小児期の健康な生活と世話	講義
	9	小児各期の健康問題	講義
	10	小児の保健と福祉の動向① 母子保健	講義
	11	小児の保健と福祉の動向② 児童福祉	講義
	12	子どもの権利と小児看護①	講義
	13	子どもの権利と小児看護②	講義
	14	小児医療の変遷と課題	講義
15	小児看護の課題 単位認定試験	筆記試験	
成績評価の方法	単位認定試験(約 90%) + 課題レポートおよび小テスト(約 10%)		
履修上のアドバイス	事前学習課題を出すことがあります。提出期限を厳守しましょう。事前に配付された資料は予習して授業に参加すると内容理解が深まるでしょう。		
テキスト	「系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」 医学書院		
参考文献	国民衛生の動向 厚生統計協会		

\* 実務経験のある教員

科目名	小児臨床看護総論	担当講師	*土居浩 14時間 *西山美奈子 16時間(テスト含む)
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	2
科目の概要	小児期特有の健康障害について、その病態生理や治療及び検査について理解し、病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護について学ぶ。また、子どもの健康段階や発達段階に応じた看護の方法を理解し、小児に出現しやすい症状とその看護について学ぶ。		
到達目標	1.小児期特有の疾患と治療や検査について理解する。 2.病気や入院による小児や家族への影響を理解し、適切な看護が理解できる。 3.小児の健康段階に応じた看護の方法を理解できる。 4.小児に出現しやすい症状とその看護が理解できる。		
CP・DP との関連	CP4.健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2.批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につける。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	小児期特有の健康障害①(土居)	講義
	2	小児期特有の健康障害②(土居)	講義
	3	小児期特有の健康障害③(土居)	講義
	4	小児期特有の健康障害④(土居)	講義
	5	小児期特有の健康障害⑤(土居)	講義
	6	小児期特有の健康障害⑥(土居)	講義
	7	小児期特有の健康障害⑦(土居)	講義
	8	病気や入院が子どもと家族へ及ぼす影響①(西山)	講義
	9	病気や入院が子どもと家族へ及ぼす影響②(西山)	講義
	10	小児の健康段階に応じた看護の方法 急性期・回復期・慢性期(西山)	講義
	11	小児の健康段階に応じた看護の方法 子どもと死・終末期(西山)	講義
	12	小児に出現しやすい症状とその看護①(西山)	講義
	13	小児に出現しやすい症状とその看護②(西山)	講義
	14	小児に出現しやすい症状とその看護③(西山)	講義
15	単位認定試験	筆記試験	
成績評価の方法	単位認定試験 100%(土居50% 西山50%)		
履修上の アドバイス	講義の前後小テストが行われることがあります。小児期特有の疾患について、代表的な疾患を挙げて、その病態・検査・治療について講義していきます。系統的な分類をもとに作成したマトリクスを配布しますので、その他の疾患については自己学習して下さい。		
テキスト	「系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論小児臨床看護総論 医学書院」 「系統看護学講座 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院」		
参考文献	随時、紹介します。		

\*実務経験のある教員

科目名	小児臨床看護の実際	担当講師	*島田 啓太 *原 博隆 *野口 早世 *西山 美奈子	8 時間 2 時間 4 時間 16 時間
単位数 (時間数)	1 ( 30 )テスト含む	配当年次	2	
科目の概要	小児を援助するための基本技術を修得し、健康障害をもった小児の看護の方法を学ぶ。様々な状況にある小児と家族の事例をもとに看護過程と看護技術を演習しながら学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動制限や隔離が必要な小児の状態を知り、看護の方法を理解する。</li> <li>2. 手術を受ける子どもの特徴を理解し、手術前後の看護の方法について理解する。</li> <li>3. 救急処置が必要な小児の状態を理解し、小児の基礎看護技術を修得する。</li> <li>4. 先天異常や障害の定義を理解し、小児と家族への看護について理解する。</li> <li>5. NICU に入院している子どもと家族への看護について理解する。</li> <li>6. 在宅療養中の子どもと家族の看護について理解する。</li> <li>7. 被虐待が疑われる小児と家族への看護について理解する。</li> <li>8. 災害時に必要な小児への看護について理解する。</li> </ol>			
CP・DPとの関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断を身につける。 DP4. 対象に応じた、確かな看護技術力を身につけている。			
授業計画	回数	学習内容		方法
	1	活動制限・隔離が必要な子どもと家族への看護 (島田)		講義
	2	救急処置が必要な子どもと家族への看護 (島田)		講義
	3	検査や処置を受ける子どもと家族への看護① (島田)		講義
	4	検査や処置を受ける子どもと家族への看護② (島田)		講義・実技
	5	手術を受ける子どもと家族への看護① (西山)		講義
	6	手術を受ける子どもと家族への看護② (西山)		講義
	7	心身障害のある小児と家族への看護① (原)		講義
	8	心身障害のある小児と家族への看護② (西山)		講義
	9	NICU に入院している小児と家族への看護① (野口)		講義
	10	NICU に入院している小児と家族への看護② (野口)		講義
	11	在宅療養への移行期にある子どもと家族への看護 (西山)		講義
	12	被虐待が疑われる子どもと家族への看護 (西山)		講義
	13	災害時の子どもへの看護 (西山)		講義
	14	まとめ(西山)		講義
15	単位認定試験		講義	
成績評価の方法	単位認定試験 100% (島田 30% 西山 70%)			
履修上のアドバイス	小児臨床看護総論で用いたマトリクスを参考にして学習を深めてください。児童虐待や災害に関する報道等に興味を持ちながら講義を受けると学習内容が深まるでしょう。			
テキスト	「系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院」 「系統看護学講座 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院」			
参考文献	随時、紹介します。			

\*実務経験のある教員

# 母性看護学

科目名	母性看護学概論	担当講師	*中野真由美(テスト含む) 17時間 *山崎香代子 13時間
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	2
科目の概要	母性の特徴と看護の役割及び母性を取り巻く環境について学ぶ		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>母性について、愛着形成、母子相互作用について理解できる。</li> <li>母子保健統計と母性看護の対象を取り巻く環境が理解できる。</li> <li>母性看護の対象に関する法律と母子保健施策が理解できる。</li> <li>リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護が理解できる。</li> <li>女性のライフステージ各期の健康問題と看護が理解できる。</li> </ol>		
CP・DP との関連	<p>CP1. 人間尊重に基づいた温かで誠実な心を育み、生命の尊さと価値観の多様性を認識し、人間を統合された存在として幅広く理解する基礎的能力を育む。</p> <p>CP3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。</p> <p>CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。</p> <p>DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。</p> <p>DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。</p>		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	母性看護の主要な概念(中野)	講義
	2	母子保健統計(中野)	講義
	3	母性看護の対象を取り巻く環境の変遷と現状(中野)	講義
	4	母性看護の対象に関する法律と母子保健施策(中野)	講義
	5	セクシュアリティの概念(山崎)	講義
	6	リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護①(中野)	演習
	7	リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護②(中野)	演習
	8	リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護③(山崎)	演習
	9	リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護④(山崎)	講義
	10	思春期の健康問題と保健指導(山崎)	講義・演習
	11	性成熟期の健康問題と保健指導(山崎)	講義
	12	更年期の健康問題と保健指導(山崎)	講義
	13	出生前診断の現状と受ける対象の看護(中野)	講義
	14	不妊治療の現状と受ける対象の看護(中野)	講義
15	単位認定試験(中野)	試験	
成績評価の方法	単位認定試験(95%) レポート課題(5%)		
履修上の アドバイス	単位認定試験だけでなく、レポート課題も評価対象となるため、提出期限についても注意を払っておくといでしょう。		
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論」医学書院		
参考文献	(以下の本は適宜使用します。使用時は事前に伝えます。) 公衆衛生がみえる メディックメディア わが国の母子保健 財団法人母子衛生研究会		

\*実務経験のある教員

科目名	周産期の正常な経過とハイリスク	担当講師	*宮下昌子 14 時間 *中野真由美(テスト含む) 6 時間 *山崎香代子 10 時間
単位数 (時間数)	1( 30 )テスト含む	配当年次	2
科目の概要	1. 人間の性と生殖を考えるため、ヒトの遺伝的要因と出生前診断、治療について学習する。 2. 周産期にある対象の生理的変化とその特性、また健康逸脱について学習する。		
到達目標	1. 不妊治療、出生前診断の内容が理解できる。 2. 周産期にある対象の生理的変化とその特性が理解できる。 3. 周産期にある対象のハイリスクな病態、治療が理解できる。		
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	妊娠の経過とその生理① (中野)	講義
	2	妊娠の経過とその生理② (中野)	講義
	3	胎児の発育とその生理 (中野)	講義
	4	分娩の3要素 (山崎)	講義
	5	分娩の経過 (山崎)	講義
	6	産褥期の生理的変化 (山崎)	講義
	7	新生児の生理的変化 (山崎)	講義
	8	不妊治療、出生前診断 (宮下)	講義
	9	ハイリスク妊娠① (宮下)	講義
	10	ハイリスク妊娠② (宮下)	講義
	11	分娩の異常① (宮下)	講義
	12	分娩の異常② (宮下)	講義
	13	産褥の異常① (宮下)	講義
	14	産褥の異常② (宮下)	講義
15	単位認定試験 (中野)	筆記試験	
成績評価の方法	単位認定試験 100% (50%宮下 50%中野)		
履修上の アドバイス	専門用語の定義を理解しておきましょう。教科書で予習、復習をしておくといでしょう。		
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論」医学書院		
参考文献	病気が見える vol.10 産科 メディックメディア		

\*実務経験のある教員

科目名	周産期にある人の看護	担当講師	*島田紗代子 *中野真由美	10 時間 20 時間
単位数 (時間数)	1( 30 )テスト含む	配当年次	2	
科目の概要	周産期にある対象とその家族に必要な看護を学ぶ。			
到達目標	1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の対象の看護が理解できる。 2. 産褥期の正常逸脱した対象の看護が理解できる。 3. 周産期に必要な看護技術を実践できるための知識と技術が習得できる。			
CP・DP との関連	CP3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。 CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。			
授業計画	回数	学習内容	方法	
	1	妊娠初期にある妊婦と胎児のアセスメントと保健指導	講義・演習	
	2	妊娠中期にある妊婦と胎児のアセスメントと保健指導	講義・演習	
	3	妊娠末期にある妊婦と胎児のアセスメントと保健指導	講義・演習	
	4	分娩期にある産婦・胎児・家族のアセスメントと看護①	講義・演習	
	5	分娩期にある産婦・胎児・家族のアセスメントと看護②	講義・演習	
	6	周産期の看護技術①(母体の計測・胎児心拍モニターの解読)	講義・実技	
	7	周産期の看護技術②(産痛緩和法)	実技	
	8	褥婦のアセスメントと看護 (島田)	講義・演習	
	9	帝王切開を受けた対象の看護 (島田)	講義・演習	
	10	乳房トラブル、子宮復古不全のある対象の看護 死産・障害がある新生児を出産した親の看護 (島田)	講義	
	11	新生児のアセスメントと看護① (島田)	講義・演習	
	12	新生児のアセスメントと看護② (島田)	講義・演習	
	13	ウェルネス看護診断について	実技	
	14	周産期の看護技術③(沐浴・衣類交換)	講義	
15	単位認定試験	試験		
成績評価の方法	単位認定試験 100% (50%島田 50%中野)			
履修上の アドバイス	・「周産期の正常な経過とハイリスク」で既習した学習を土台として正常・正常逸脱のアセスメントをできるような学習をしていきましょう。 ・周産期の看護技術はモデル人形を使用します。安全な技術を修得しましょう。			
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論」医学書院			
参考文献	母性看護学実習プレブック 看護過程の思考プロセス 医歯薬出版株式会社 ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版株式会社 看護過程の展開に沿った実習記録の書き方とポイント サイオ出版			

\*実務経験のある教員

# 精神看護学

科目名	心の健康のための治療と看護	担当講師	*神宮司 多門 : 10 時間 *松尾 勝久 : 10 時間 *鎌田 美和子 : 10 時間
単位数 (時間数)	1( 30 )	配当年次	2
科目の概要	精神医療に関する歴史, 精神科治療を学び, 精神症状や疾患・治療・検査について理解する。また, 精神症状や薬物療法などが対象の日常生活行動に影響を及ぼすことを理解する。心の健康問題をもつ患者及び家族に対して必要な看護を行うため, 患者-看護者関係を治療的関係に発展させる対人関係の技術を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医療の歴史, 精神科治療を学び, 精神症状や疾患・治療・検査について理解する。</li> <li>2. 人権を尊重し, 自己の倫理観を養うことができる。</li> <li>3. 保健・医療・福祉における他職種を理解し, チームの一員として連携する看護師の役割を理解できる。</li> <li>4. こころの健康問題を持つ人との患者-看護者関係を治療的関係に発展させる必要性を理解し, 自己洞察する能力を高めることができる。</li> </ol>		
CP・DPとの関連	DP2. 批判的に論理的な思考を身につけ, 科学を探究し, 適切な判断を身につける。 CP3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。 DP4. 対象の状態に応じた, 確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	精神医学の変遷 (神宮司)	講義
	2	精神保健福祉法 (神宮司)	講義
	3	精神障害の種類と診断基準(臨床検査・心理テスト)(神宮司)	講義
	4	気分障害(松尾)	講義
	5	精神障害の治療① (神宮司)	講義
	6	認知症①(松尾)	講義
	7	認知症②、症状精神病 (松尾)	講義
	8	精神障害の治療② (神宮司)	講義
	9	統合失調症①(松尾)	講義
	10	統合失調症②、精神作用物質使用による精神・行動の障害(松尾)	講義
	11	ケアの前提, ケアの原則・方法 (鎌田)	講義
	12	プロセスレコード, 患者-看護者関係対人関係技術 (鎌田)	講義
	13	精神障害をもつ対象とのコミュニケーション (鎌田)	講義
	14	プロセスレコード演習① (鎌田)	講義・演習
	15	プロセスレコード演習② (鎌田)	講義・演習
16	単位認定試験	筆記試験	
成績評価の方法	単位認定試験 90%(神宮司・松尾 70% 鎌田 20% 配点) レポート課題 10%		
履修上のアドバイス	精神疾患や治療の理解ができるように文献を活用し, 講義を受けるようにしましょう。また, 対人関係技術の理解では, 患者-看護者関係を治療的発展させるため, プロセスレコードを活用し自己洞察できる能力を身につけられるよう積極的に参加しましょう。		
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開」医学書院		
参考文献	情緒発達と看護の基本 メディカ出版 国民衛生の動向 厚生統計協会 精神看護学ノート 医学書院		

\*実務経験のある教員

科目名	精神看護の実際	担当講師	*野田 博明 8時間 *照沼 将志 6時間 *園田 正隆 2時間 *山口 奈津子 14時間
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	2
科目の概要	精神看護の役割を学び、精神疾患に多い症状とその看護を理解する。生活を整えるための援助、地域における看護を理解する。 オレム・アンダーウッド理論を学び、対象に応じた精神看護について理解する。		
到達目標	1. 精神に障害をもつ対象および家族に行う看護における精神科看護師の役割について理解することができる。 2. 精神症状や精神状態に及ぼす影響を理解し、生活を整えるための看護援助の方法を理解する。		
CP・DPとの関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	入院治療と看護の展開【野田】	講義
	2	治療環境、精神障害の回復過程と看護【野田】	講義
	3	症状・疾患別看護【野田】	講義
	4	事例検討【野田】	講義
	5	行動制限(隔離・拘束)、リスクマネジメント【照沼】	講義・演習
	6	精神看護の倫理と法【照沼】	講義
	7	地域精神医療資源と精神訪問看護【照沼】	講義
	8	アディクションと看護【園田】	講義
	9	オレム・アンダーウッドのセルフケア理論【山口】	講義・演習
	10	精神看護の看護過程【山口】	講義
	11	事例を用いた看護過程の展開①【山口】	講義・演習
	12	事例を用いた看護過程の展開②【山口】	講義・演習
	13	事例を用いた看護過程の展開③【山口】	講義・演習
	14	事例を用いた看護過程の展開④【山口】	講義・演習
15	単位認定試験	筆記試験	
成績評価の方法	単位認定試験 80% (専任教員 30% 看護師 50%) レポート課題(20%)		
履修上のアドバイス	精神に障害をもつ対象や家族を支援する精神科看護師の役割とは何か、臨床での実際の看護場面を聞き考えましょう。また、精神障害のある対象を理解するため、文献学習を積極的に行い、生活を整えるための看護援助の方法を考えましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院		
参考文献	オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 ヌーベルヒロカリ		

\*実務経験のある教員

# 看護の統合と実践

科目名	医療安全	担当講師	*山口真由美
単位数 (時間数)	1( 30 )テスト含む	配当年次	2
科目の概要	<p>生命の尊厳と人々を保護し安全を確保することは、看護師の責務である。治療・処置の最終実行者になる機会の多い看護師は、医療事故の当事者になる可能性も高い。安全への配慮を欠くと患者のみならず自分自身の看護職としての身分も守ることができない。以上の観点から医療事故予防に関する知識・技術を理解し、安全で質の高い看護が実践できる基礎的能力を修得する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全への取り組みの必要性について理解できる。</li> <li>2. 医療安全に関する用語を正しく理解できる。</li> <li>3. なぜ事故が発生するのかを知り、人間の特性、安全対策の考え方を理解できる。</li> <li>4. 看護職の法的規定及び医療事故に伴う法的責任について理解できる。</li> <li>5. 医療安全に関する国及び医療機関の取り組みを理解できる。</li> <li>6. 看護場面に潜む危険と事故防止策を理解できる。</li> </ol>		
CP・DPとの関連	<p>CP3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。 DP3. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。</p>		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	なぜ医療安全か 医療事故に関する基礎知識	講義
	2	事故発生のメカニズム	講義
	3	人間の行動とヒューマンエラー	講義
	4	事故分析	講義・演習
	5	事故防止対策①	講義
	6	事故防止対策②	講義・演習
	7	自己のインシデント(アクシデント分析)	演習
	8	看護職の法的規定と医療安全に伴う法的責任	講義
	9	国の医療安全対策	講義・演習
	10	医療機関における安全対策と医療事故後の対応	講義
	11	看護場面に潜む危険と事故防止策①	講義・演習
	12	看護場面に潜む危険と事故防止策②	講義・演習
	13	看護場面に潜む危険と事故防止策③	講義・演習
	14	看護場面に潜む危険と事故防止策④	講義・演習
15	単位認定試験	筆記試験	
成績評価の方法	単位認定試験(100%)		
履修上のアドバイス	既習の知識や体験を活用しながら、学習していきます。演習を多く取り入れた参加型の授業形態をとるため、事前学習や課題に対して積極的に取り組み、参加するとよいでしょう。		
テキスト	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践2 医療安全 メディカ出版		
参考文献	新体系看護学全書 統合分野 看護実践マネジメント/ 医療安全 メヂカルフレンド社 医療安全ワークブック 第4版 医学書院		

\*実務経験のある教員

# 臨地実習

科目名	基礎看護学実習	担当講師	*山口真由美*中村加代子*西山美奈子 *山口奈津子*平晴奈*山崎香代子
単位数 (時間数)	2( 90 )	配当年次	2 年次
科目の概要	基礎看護学実習は、看護過程という新たな思考プロセスを用いて、対象の状態に応じた看護を実践する基礎的能力を身につけることをねらいとする。看護学の基盤となる実習であり、今後の学習の導入となる実習としても重要な意義を持つ。また、様々な人々との出会いを通して、看護師としての役割や責任、信頼関係の構築など看護師として必要な態度・姿勢など学ぶ機会となり、他者理解や自己理解を深める機会ともなる。チームにおける個人の役割を意識しながら、リーダーシップ、メンバーシップを養い、グループダイナミクスを利用しチームとしての成長と共に学生個人の成長を目指す。		
到達目標	1. 目的:健康障害により日常生活が制限されている対象の看護過程を通し、対象の状態に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。		
関連科目	看護概論 共通基本技術 日常生活援助技術 診療補助技術 臨床看護総論 形態機能学ⅠⅡ 薬理学 臨床生化学と栄養 疾病と治療論Ⅰ～Ⅴ		
CP・DP との関連	CP1. 人間尊重に基づいた温かで誠実な心を育み、生命の尊さと価値観の多様性を認識し、人間を統合された存在として幅広く理解する基礎的能力を育む。 CP2. コミュニケーション能力を養い、共感能力を身につける。 CP3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。 CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 CP7. 看護について探求心を持ち、継続して学ぶ姿勢を養う。 CP8. 学修成果の評価は、シラバスに明示された到達目標と成果を示す小テスト・単位認定試験・レポートや授業への参加態度、実習評価などを含め、多様な方法で総合的に行う。また、学修の取り組みについて学生自身が自己評価を行い、課題解決に向けて取り組む姿勢も評価する。 DP1.人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2.科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP3.主体性をもちながら、他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP4.対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。 DP5.看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。 DP6.変化を恐れず、新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。		
授業計画	実習方法		
	1) 患者を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 毎朝、その日の目標・行動計画の指導助言を受け、行動計画に沿って実施する。 3) 毎日、看護ケアの向上を目指したテーマを設定し、カンファレンスを行い協同的に学びあう。 4) 日々の実践を振り返る。		
成績評価の方法	実習評価表を用いて 100 点満点で評価する。		
履修上の アドバイス	実習オリエンテーションが行われますので、積極的に参加し、準備をしましょう。		
テキスト	系統看護学講座 全巻 医学書院		
参考文献	随時紹介します。		

\*実務経験のある教員